

まるで秋の夕焼けのような美しさ

陶史の森では、秋が深まるにつれてたくさんのアカトンボが飛び交うようになります。

ミヤマアカネの“ミヤマ”は漢字で「深山」、^{あかね}“アカネ”は「茜」と書きます。「山奥の夕焼け色のトンボ」という意味のミヤマアカネは、「日本で一番美しいアカトンボ」だとか「世界で唯一、^{はね}翅に茶色の帯があり、先端が透明なアカトンボ」といわれています。大きさは3～4cm程で、生息場所は山奥ばかりでなく、山麓から平地にかけて小川や田んぼなどの水深が浅く緩やかな流れのある場所を好みます。夏の間はオスもメスも黄色ですが、秋になると、オスは胴体が真っ赤になり、メスは薄い赤茶色になります。茶色の帯の前には^{えんもん}縁紋があり、オスは蛍光ピンク色、メスは蛍光ミルク色と、とても鮮やかです。

ミヤマアカネは秋になると警戒心が強くなり、なかなか近づくことができません。晴れた日は活発に動き回り、一度飛び立つと遠くまで飛んでいってしまいます。彼らは秋が深まるとオス・メス共に成熟し、子孫を残します。遠くへ飛び立つのは、外敵に捕まったり食べられたりしないように必死だからなのかもしれません。見つけても捕まえたりせず、秋の夕焼け空のような温かい色合いを楽しんでください。



ミヤマアカネのオス（上）とメス

森	の	陶史の森は、鳥獣保護制度の「特別保護指定区域」に指定され、野生動物や植物の宝庫です。
日記		

最近目撃された野生動物

ニホンカモシカ

7月1日(月)



特別天然記念物の大型動物で、低山地から亜高山帯の落葉広葉樹林に生息しています。これまで目撃情報は1件もありませんでしたが、来場者の方がバッタリ遭遇しました（来場者の方からの提供写真）。

タヌキの子ども

7月14日(日)

タヌキは夜行性の動物です。この日は親とはぐれたのか、昼間にバーベキュー場付近などに現れ、人間を見ても逃げませんでした。



【注意】野生動物はどんな行動を取るか予測できませんし、伝染病などを持っている可能性があります。陶史の森内で野生動物に遭遇した場合は、決して近づいたりしないで、静かにその場を離れてください。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

教室のご案内

9月

草木染め教室（要申込・定員20人）

9月8日(日) 9:00～11:30

草や木を煮出して白い布を染めます。

秋の天体教室（要申込・定員20人、雨天中止）

9月14日(土) 18:15～19:30

初秋の星座や月のクレーターを観察します。

バードウォッチング（自由参加、雨天中止）

9月22日(日) 9:00～11:30

初秋の野鳥を観察します。

鳴く虫教室（要申込・定員20人、雨天中止）

9月29日(日) 9:00～11:30

秋に鳴く虫の音色を楽しみ、飼育方法を教わります。

10月

きのこ教室（要申込・定員20人）

10月6日(日) 9:00～11:30

陶史の森に生えているキノコを観察し、名前などを教わります。

バードウォッチング（自由参加、雨天中止）

10月27日(日) 9:00～11:30

秋の野鳥を観察します。